

平成27年度(基盤研究(S)) 研究概要(採択時)

【基盤研究(S)】

人文社会系(社会科学)



研究課題名 向社会行動を支える心と社会の相互構築

一橋大学・大学院国際企業戦略研究科・特任教授

やまぎし としお
山岸 俊男

研究課題番号: 15H05730 研究者番号: 80158089

研究分野: 社会科学

キーワード: 向社会行動、利他性、進化、経済ゲーム実験、脳

【研究の背景・目的】

本研究は、生物学的存在としてのヒトを社会的存在としての人間たらしめている向社会性(協力性、共感性、互惠性等)の心理・神経基盤と、その背後にある制度(他者の反応の予測を可能とする共有信念・誘因複合体)との間の相互構築関係の解明を通し、現在の日本社会が直面する、より「開かれた社会」・「信頼社会」へ向けた移行を促進するための心と社会の条件を明らかにすることを目的とする。そのために、制度が一方では人々の適応行動のあり方を規定すると同時に、適応行動そのものが他者にとって予測可能な行動パターン(=制度)を構成するとする社会的ニッチ構築アプローチを、人間の社会性の進化的基盤の解明及び文化・制度的基盤の解明の二つの側面から進める。本研究では、向社会性を支える心理的基盤と文化・制度的基盤の変革可能性に焦点を絞り、心と社会の相互構築関係の解明を、以下の3テーマについて進める。

1) デフォルト協力と戦略的協力。社会的交換ヒューリスティックの働きが協力行動につながりやすいのは特に安心社会においてであり、信頼社会では戦略的意思決定が協力行動によりつながりやすいとする仮説を、行動実験とfMRI実験を用いて検証する。
2) 心の文化差の基盤としての社会秩序形成原理。
①安心社会型秩序への適応行動を生み出す「防衛型協調性」が特に若者の間での社会的リスク回避傾向を強め、秩序原理変革への動きを阻害していることを明らかにすると同時に、②社会関係からの排除のコストを低下させることが防衛型協調性及び社会的リスク回避傾向を低下させると同時に、自己表現を核とする関係形成型独立性を高めることを示す。
3) 遺伝子・文化・制度共進化。現代日本が直面する秩序形成原理の変革に際して遺伝子多型の文化差が果たす(あるいは果たさない)役割に関する基礎データを蓄積する。

【研究の方法】

本研究実施上の基本方針として、現在継続中の研究(一般研究S「向社会性の心理・神経的基盤と制度的基盤の解明」)参加者に再度の実験参加を求め、新たに、関係内部での安心追求が有利に働く環境と、関係外部での機会追究が有利に働く環境を操作した実験を実施する。また同時に、より多様な条件操作の可能性を検討するために、参加者の確保が簡単な

学生参加者を対象とした条件操作実験を実施する。現在継続中の研究では、複数の経済ゲームにおける一貫性(及びその欠如)を示す行動データ、及びそれらの行動を支える心理的基盤・神経的基盤に関するデータ、更には社会行動との関連が指摘されてきた遺伝子多型に関するデータが、20代から50代まで均等に分布するほぼ500名から得られており、世界的にユニークで極めて貴重なデータ・ベースが構築されている。本研究計画では、この貴重な参加者データに新たに要因操作型の実験を追加することで、研究の効率的遂行をはかる。

【期待される成果と意義】

本研究は、日本社会の移行という社会科学の問題を解くために理系の知恵を借りるという、文系を主体とする文理連携のあり方を前提としており、今後の社会科学の進むべき一つの方向性を示すものである。本研究の直接の成果は、社会的交換ヒューリスティック仮説の検証とデフォルト協力の頑健性の確認、異なる社会秩序のもとで向社会行動に対し戦略的意思決定が果たす役割の検討、心の文化差に果たす社会的ニッチ構築の役割の解明、社会的ニッチ構築に遺伝子多型が果たす役割の解明を進め、その成果を国際的トップジャーナルに国際的インパクトを持つ研究論文を発表することで確認される。そうした研究成果は、心と社会との相互構築関係についての科学的理解を進展させると同時に、今後の日本社会の設計に際して必要な基礎データを提供する。この点に本研究の最大の意義がある。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- Yamagishi, T. (2011). *Trust: The evolutionary game of mind and society*. Springer.
- Yamagishi, T., Horita, Y., et al. (2012). Rejection of unfair offers in the ultimatum game is no evidence of strong reciprocity. *PNAS USA*, 109, 20364-20368.

【研究期間と研究経費】

平成27年度-31年度 153,500千円

【ホームページ等】

<http://www.human-sociality.net/>
tamtamagawasp@gmail.com